

2年連続

教育効果を文部科学省が高く評価。「特色ある大学教育支援プログラム」に選定。 ～実体験から学ぶ。社会性を育む。湘北の体験教育～

「実技を通じて智識のみでなく、世の中を生きていく、人を率いていける人柄を身につける教育を」—本学の建学の理念は、ソニー創立者である故・井深大氏が寄せたこの言葉に集約される。

昭和49年の開学以来、本学は、全人的育成を教育目標として掲げ、学生生活のあらゆる面においてきめ細かい指導を行ってきた。

そしてこのたび、多面的に展開してきた「体験教育」への取組は、文部科学省が選定する「特色ある大学教育支援プログラム」において、2年連続選定という快挙を成し遂げた。

今後、全国の大学・短期大学の参考となり、かつ刺激となって、高等教育の活性化の一助となることが期待される。

「特色ある大学教育支援プログラム」とは？

目的 文部科学省が全国の大学・短期大学の教育改善に関する取組の中から特色ある優れたものを選定し、広く社会に提供するなど、今後の高等教育の改善に活用すること。

選定対象

学部・学科レベルでの教育を中心に、学科単位以上で組織的に取り組んできた実績あるもの。

選定のポイント

特色性、組織性、実績、共通性、公益性(社会的使命)

湘北の体験教育の目的

確かな基礎学力に
支えられた高い専門性

自主的に問題を見出し
解決する能力

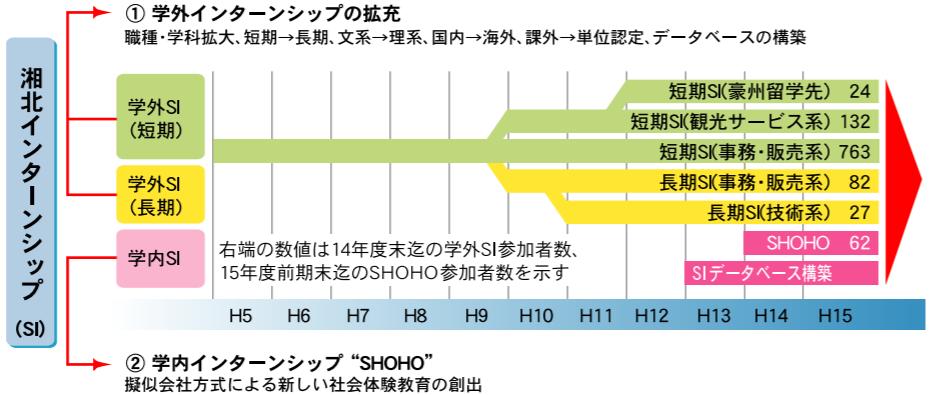
責任ある社会人
としての教養・資質

平成15年度選定

短期大学における社会体験教育の多面的展開

～湘北インターンシップ(SI)～

湘北インターンシップの多面的展開



湘北インターンシップを支える組織

●インターンシップセンター

実際の指導にあたる各学科の担当教員がセンター委員を兼務。派遣先企業の開拓、期間中の巡回、報告会の開催などを実施している。教員が深く関わる利点は、日頃の授業を通して学生の希望を熟知しているため適切な指導を行うことが可能で、より効果を高めることができる点にある。

●SHOHO支援チーム

SHOHOは、学生が自主的にチームで活動するものであるが、通常の学友会やクラブ活動とは異なり、事務局長をリーダーとする教職員チームが積極的に支援活動を行っている。成果の経済価値と必要コストを対比して把握させ、学生が事業を正しく認識するよう指導している。

学外・学内それぞれの具体的な取組内容

企業に触れ、社会で学ぶ 学外インターンシップ



短期
長期
留学先

学外SIは①短期(1~2週間)②長期(1ヶ月半)③技術系④留学先の4種類。現在、大半のSIが単位認定科目となっている。学生はソニーグループをはじめとする多くの企業の他に官公庁など70ヵ所以上の協力を得て就労体験をしている。一般事務や販売だけでなく、ホテルなどのサービス業、技術系においてはソフトウェア開発や研究補助など、先駆的で多彩なプログラムを用意している。

また、派遣先のニーズに応えるための事前学習として、ビジネスマナーやパソコンスキルなどの特別研修も実施。実習中には、担当教員が派遣先企業と緊密な連携をとり実習視察を実施、学生のフォローを行っている。

実習後には学内で報告会も開催され、学生は自己の変化を意識しつつ、参加しなかった学生と実習成果を分かちあうこともできるようになっている。

学生にとっては、自己の適性を意識し、進路選択などにも役立てる絶好の機会といえる。また、教員にとってもSIを通じて得た企業ニーズをカリキュラムに反映することができ、学びの場となっている。

学生活動のニューススタイル 学内インターンシップ



学外SIでは得難い協調性や主体性を養うための新しい社会体験手法として、学内SI「SHOHO」(SHOhoku Hands-on Officeの略、SOHO、商法にも通じる)活動を実践している。SHOHOでは、学生に擬似会社体験をさせて、その成果から企業人としての基礎知識を学び取ることができる。

SHOHOは、有志学生でチームを結成し、企画書作成からスタート。企画のプレゼンを経て発注を受け、具体的な活動が始まる。

これまでに、厚木商店会連合会ホームページ制作、学内合同企業面接会用ノベルティ制作(手作り石鹼、手作りと紙カレンダー、手染め風呂敷他)、就職活動入門CD-ROM制作、キャンパス模型制作などの実績を持つ。

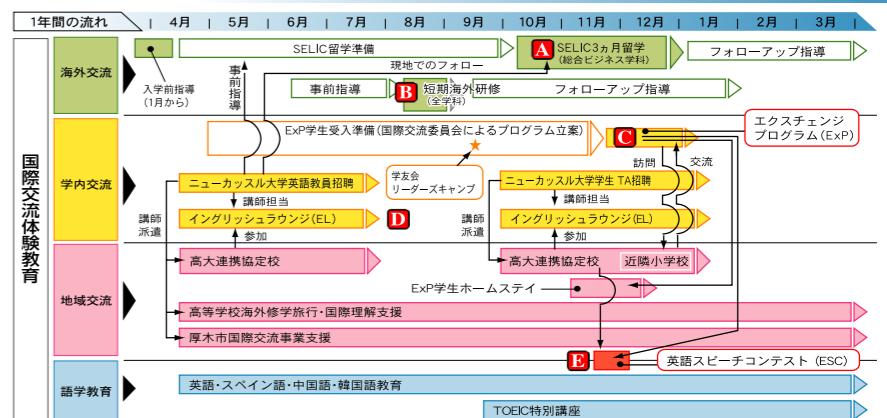
演習や実習など授業で得た知識や技術に加え、自分たちで検索・収集した情報などで開発・試作を繰り返し、商品は完成に至る。同時に予算管理や商品企画のプロセスなど、座学のみでは学べない多くのことを体験を通して身につけることができる。

平成16年度選定

国際交流体験教育の多面的展開

～実践的コミュニケーション能力育成プログラム～

国際交流体験教育の多面的展開 A～E の内容は下記



国際交流体験教育を支える組織

●国際交流委員会

本取組において最も重要な位置を占める国際交流委員会は、平成2年に学友会内に発足した学生組織である。エクスチェンジプログラムと称する豪州からの留学生受け入れに関する活動を中心に、イベントプログラムの企画から実行までのすべてを行っている。

●グローバルコミュニケーションセンター

建学理念と学長方針に則して行われる本取組の中心的役割を担う教職員組織で、全学科から選出される教職員の十数名によって構成されている。本取組の全てを所管し、国際交流委員会の活動を力強く支援している。

多彩なプログラム内容とその特色

海外

A 3ヵ月留学
有意義なプログラムが豊富な異文化体験
全期間ホームステイをしながらホストファミリーや豪州の国立ニューカッスル大学の学生と交流。参加者全員を現地企業でのインターンシップや各種ボランティア活動に参加させるなど、国際社会との交流を幅広く体験している。

B 3週間海外研修

語学研修旅行のレベルを超えた充実の内容
夏休み期間を利用して全学科から希望学生が参加。活動内容は通常の語学研修旅行の範囲を超えて、小学校訪問や老人ホーム訪問など、多彩なプログラムを用意している。

国内

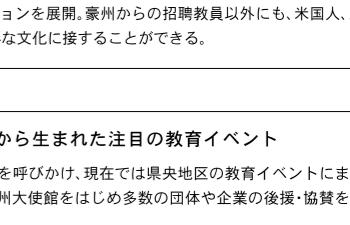
海外学生の継続的受入自体が特色(13年間累計320名)

C エクスチェンジプログラム 海外留学生のために本学学生が企画・運営
本学では過去10年間、豪州の国立ニューカッスル大学と国立オーストラリアンカソリック大学から毎年20~30人に及ぶ豪州学生の短期留学を受け入れている。2週間の滞在期間中、日本語授業や全学科の科目を選んで聴講できるのはもちろん、国際交流委員会が企画・運営する多彩なプログラムを体験することができる。



D イングリッシュラウンジ

英語への不安解消に効果を発揮する
常駐している外国人講師とコミュニケーションを展開。豪州からの招聘教員以外にも、米国人、スリランカ人等様々な国籍の講師が担当し、多彩な文化に接することができる。



E 英語スピーチコンテスト

湘北から生まれた注目の教育イベント
平成10年から県内の高校・大学等にも参加を呼びかけ、現在では県央地区の教育イベントにまで発展した。学外からの評価も高く、厚木市、豪州大使館をはじめ多数の団体や企業の後援・協賛を得ている。

インターナショナルボランティア/親善訪問 + 全期間ホームステイ

地域社会にも貢献

多彩な講師登壇

県6年連続実績

確実に浸透している取組の効果

湘北インターンシップ

湘北インターンシップ(SI)を体験した学生は、有意義な体験であったことを実感し、全体的に高い満足度を示している。また、実習後の勉学意欲・受講態度やマナーも顕著に向かっている。

就職に関しても、就職内定率向上、フリーター志向の減少、早期就職内定、派遣先への就職増加、就職後の早期離職率低下という改善が見られる。

外部からの評価としては、学外SIにおいて教員が派遣先企業と密接な交流を保ち、企業から提起された問題点に即応し的確に改善していることが評価され、長期的な信赖関係構築に役立っている。これは就職にも好影響を及ぼしている。また、高校生が本学を志願する理由のひとつにインターンシップの存在をあげることが増えていることも評価としてあげられる。

今後の計画として、学外SIにおいては、派遣先の開拓及び継続的確保、事前事後教育の充実、実施期間の拡大等。そして学内SIにおいては、SHOHO活動準備講座の単位化、学内外委託業務の開拓、地域との連携の促進等を進め、さらに大きな効果を生み出すための基盤構築を積極的に行っていている。

将来に向けての新しいスタート

連続選定を受けた2つのテーマは体験教育という共通性を持っているが、これはまさに「実技を通じて、単なる知識以上のものを学ぶ」という本学の建学の理念を具現化したものに他ならない。またどちらも過去10年以上の実績を持つ取組で、しかもその間、同じことの繰り返しではなく、次々と斬新なアイディアを盛り込み、毎年新しい多面的展開を見せてきたものである。建学の理念の実現に向けた、尽きるところを知らない教育への情熱が湘北の今日を支え、さらに明日の飛躍を招く原動力となっている。

湘北は2年連続選定の喜びに溺れることなく、これを次のチャレンジに向けた新しいスタートを切る号砲と考える。体験教育のさらなる拡大と質の向上はもとよりだが、それ以外にもあらゆる英知を傾けて、2年間の短大教育がもたらし得る最良の果実を実らせるべく努力を続けて行く——かつて創立者・井深氏が夢として描いた理想の短大教育を今の世に実現するために。

平成15年度の応募結果

応募件数(大学・短期大学全体)	664件
うち短期大学からの応募件数	151件
選定件数	80件
うち短大からの選定件数	21件

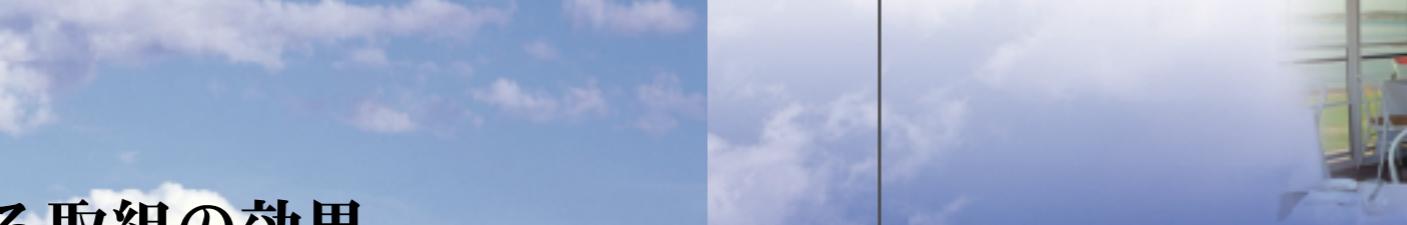
2年連続で選定された大学・短期大学数.....12校 うち短期大学数.....2校

平成16年度の応募結果

応募件数(大学・短期大学全体)	534件
うち短期大学からの応募件数	116件
選定件数	58件
うち短大からの選定件数	14件



■情報メディア学科 ■総合ビジネス学科 ■生活プロデュース学科 ■保育学科
<http://www.shohoku.ac.jp/>
〒243-8501 神奈川県厚木市温水428 TEL.046-247-3131



国際交流体験教育

本学の国際交流体験教育は、英語系学科のない本学学生に、片言の英語でも心は通じ合うことを実感させている。アンケートでは、全学生の半数近くが「積極的にネイティブと会話をした」と回答した。

国際交流委員会に参加した学生は、活動に先立つ綿密な企画書作成から活動終了後の報告書作成まで一連の流れを経験するが、それは社会人としての能力を育むことにも効果を発揮している。本取組が学生にもたらすものは、国際コミュニケーション能力だけに限らないのである。

また、地域社会や他の教育機関へと波及した本取組は、今では厚木市が米国に派遣する中学生訪問団の準備研修を委託されるなど、確かな信頼を得ている。

今後、豪州の国立ニューカッスル大学との交流をさらに密接にするために、インターネットを介した双方面ビジュアルコミュニケーションの確立を目指している。そして、本学学生の現地実習の充実、豪州学生の日本でのインターンシップ支援、CALL演習室を利用した斬新な語学教育の実践など多彩な計画を掲げ、国際化が進む社会に対応できる人材の育成に力を注いでいる。

国際交流体験教育の多面的展開

～実践的コミュニケーション能力育成プログラム～

文部科学省が選定する
特色ある大学教育支援プログラム
2年連続選定
平成15・16年度

短期大学における社会体験教育の多面的展開

～湘北インターンシップ(SI)～



学校法人 ソニー学園

湘北短期大学
しょう ほく